

## 特集 学生の研究活動報告－国内学会大会・国際会議参加記 27

### ASEAN グローバルプログラム に参加して

林 惣平

Sohei HAYASHI

環境ソリューション工学科 2年

#### 1. はじめに

2017年8月29日から9月7日にかけてベトナム・シンガポールにおいて約10日間のASEANグローバルプログラムに参加した。今回のプログラム内容は企業見学、現地学生と共に行うPBL、大学見学・交流会、講演会・交流会、博物館見学等であった。具体的なプログラムの内容は以下に記す。

表 研修日程

8月29日(火)	ベトナム入国(ハノイ) オリエンテーション(ホテル)
8月30日(水)	企業訪問(3企業)
8月31日(木) 9月1日(金)	ハノイ工業大学において 現地学生とのPBLおよび発表
9月2日(土)	博物館見学等、自由時間
9月3日(日)	ベトナム出国、シンガポール入国 博物館見学等
9月4日(月)	南洋理工大学において キャンパスプログラム
9月5日(火)	トークセッション(2名) ビジネスパーソンとの交流会
9月6日(水)	自由時間(オプションツアー) シンガポール出国
9月7日(木)	帰国

#### 2. 参加した目的

私がこのプログラムに参加した理由は、自分の中の考え方を崩そうと思ったからだ。私は大学を卒業して日本で企業に就職をし、家庭をもち生活していくのだと考えていた。私は日本の事しか知らず海外の事はほとんど無知で行ったことがなかった。しかし、ASEAN グローバルプログラムの案内を見て、

日本以外の世界を体感してみたいと感じた。自分の中にある固定概念や視野の広さ、見識の深さなどをもっと広げたいと考えて参加した。

私は英語が全然できないが、正直な気持ちとしては翻訳も含めた技術が発展するこの社会で本当に英語がいるのかと疑問に思うことが多かった。そこで海外に行ってみて英語に触れてみて確かめようと思った事も参加した理由の一つである。

#### 3. プログラム全体を通して

今回のプログラムで様々な経験をすることが出来た。海外に進出している日系企業の訪問では、海外赴任になった時の不安や海外進出の利点を教わった。ベトナムの大学生と一緒にいったPBLでは私がチームに何をできるか、逆に私の無力なところなどを知れ、自分よりもレベルの高い人たちと関わることで自分のレベルを再確認できた。シンガポールで訪問した大学では、世界でトップクラスの理工学部の研究室を見学させてもらえ、衝撃を受けた。最後に講演会では加藤順彦氏の講演を聞き、行動力と日本だけじゃなく世界に目を広げる大切さを実感した。このプログラムで私は大学生活で一番と言っているほど貴重な経験を数多く出来たと思う。

#### 4. ベトナムでの企業見学

シンガポールのプログラムでも多くの事を学んだが、本稿ではベトナムでのプログラム中で、私は特に現地企業の訪問について報告する。

このプログラムでは、NTQとRIKKEIsoftという現地企業訪問を行った。NTQは日本人スタッフも働いている会社で、主にモバイル開発や業務系アプリなどの開発に携わっている。RIKKEIsoftはスマートフォンのアプリやウェブシステムなどの開発を行っている。こちらは日本の大学を卒業したベトナム人が立ち上げた会社であるとのことだった。

今回見学した企業で日本人のスタッフの方と話す機会があり、海外で働くことを想定した場合に不安に思うことを聞くことができた。両社ともにベトナム

ムだけでなく他国の特徴を知り、特に日本との取引が多いとのことで、グローバル経営を営業の基本としていた。そのため働いている人の多くは母国語だけでなく多くの言語を習得していた。

私は事の時、初めての海外で言葉の壁を改めて実感し、思いの伝わりにくさを体感していた。その中でこの二つの企業のスタッフの中に2か国語だけでなく3か国語を話せる人もおり世界で仕事をしていく上で必須のスキルなのだろうと改めて実感させられた。

## 5. ベトナムとシンガポールの国の違い

ベトナムではまだ発展途上国なだけあり国全体的な衛生面や交通手段など、きれいとは言い難い場所や状況が多かった。車よりもバイクが多く、排気ガスが街を覆っているかと思うくらいだった。PBLのときに会ったハノイ工業大学の大学生に「街の多くの人はずなぜマスクをしているのか」と聞いたところ、排気ガスを吸わないためだと話してくれ、驚いた。ベトナムの建物の外見は非常にもろそうでひびや劣化や中には屋根がブルーシートの家も多くあり、路上販売している食べ物も非常に衛生面で心配だった。しかし町の人々は非常に親切で街には活気があふれていた。街頭アンケートは観光で有名なホアンキエム湖周辺でも行えたが、私が興味のある湖の水質もこの目で見れてよかった。

かわってシンガポールは出来上がった国のように思えた。密集してそびえ立つ高層ビル、きれいな街並み、高級車ばかりの道路。テレビの中のような街であり国であった。並んでいる店も高級ブランドばかりで、私には手が届かないものばかりのように思えた。

同じ地球の上、しかもすぐそばにあるのに国が違

うだけでここまでの差があるのだと実感させられた。日本の生活はととても便利で衛生面が行き届いていることを実感し、少し汚いだけで文句をいう日本人を見ると価値観、国の違いをさらに感じた。

## 6. このプログラムを通して

私はこのプログラムを通して世界の広さを再確認できた。海外で働く日本人、同じ大学生なのにレベルの違う人たちと触れ合い、私がどれだけ今まで怠っていたか思い知らされた。しかし今このことを知れたことは私にとってとても大切なことだ。言葉の壁、知識、人の価値観このプログラムで多くのことが身についたと思う。

これから私は大学生活で残された時間を大切に、自身をもっと高めて世界で通用する人間になりたいと強く思うようになった。

## 7. おわりに

今回のプログラムを通して日本でいるだけでは絶対に経験しなかった経験をさせて頂いた。私がどれほど甘い考えで生きてきたか、どれだけ狭い世界で生きてきたかに気付けた。ただ海外旅行に行っても学べなかった事も多くあった。私自身の経験の少なさも実感できた。大学生だからこそできる体験というものはまだ他にも多くあると思う。残りの大学生活は私自身を高めるためあらゆることに参加できるように努力し、多くの経験をしていきたいと考えている。

最後に、このような機会を与えてくださった方々、このプログラムを立ち上げてくださった方々、ベトナム・シンガポールで関わられた方々に、心より御礼申し上げます。